

もっと知りたい！

天沼小の取組

令和2年度の天沼小学校の教育内容・運営方針を詳しくご紹介しています。

こちらをご覧ください、天沼小学校の教育活動・学校運営について理解を深めていただければ幸いです。

1 基礎学力の定着（「学んでわかるおもしろさ」をめざして）

「あまぬま学びの約束」に基づき、言語活動の充実やグループ制・専科制の導入、学習後のフォローアップの整備などを通じて、基礎的な学力の習得・定着に取り組んでいきます。

① 「あまぬま学びの約束」の実践

学校生活の基本ルールである「あまぬま学びの約束」^{※1)}を守りながら、充実した教育を進めていきます。

※1) 年度始めに配布し、この「約束」をもとに授業を行っていきます。

② すべての教育活動での言語活動の充実

すべての学びの基本が言語活動（「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの活動）です。学校で取り組むすべての教育活動において、自分の意見を考え発表する機会や話し合い活動、文章の読み取りなど、言語活動を充実させていきます。3年生以上は1人1台のタブレットも活用し、考えの発表や意見交流を行っていきます。

③ 算数少人数指導の実施

算数については1～6年生^{※2)}まで担任に加え、算数少人数担当教員等との連携により、3学級を4つに分けて、また2学級を3つに分けて等、学習の目的や内容に合わせた様々な指導方法^{※3)}を取り入れ、児童一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境作りを行っていきます。

※2) 1年生の1学期に関しては、学校生活に慣れることを優先させるため、1、2組を4クラス・3組を2クラスに分けてティームティーチング（複数の教員による指導）を行なっています。（④の解説をご覧ください）。

※3) 例えば「習熟度別の形態」では、「どんどん・すくすく・じっくり」などのコースに分かれ、その教科が苦手であったり、理解に時間がかかったりする児童は基礎・基本部分の学習を確実にを行い、理解の早い児童はさらに発展問題などに取り組んでいます。

④ 教員の専門性を生かした指導の実施

教員の専門性に触れることで児童の個性や意欲を伸ばすために、4年生では音楽・図工、5・6年生では理科・音楽・図工を専科制としています。またティームティーチング^{※4)}や同学年間での教科担当制^{※5)}に取り組んでいきます。

※4) 複数の教員が役割を分担し、チームとして協力しながら指導計画を立て、指導を行う方式です。

※5) 学年の中で教科を分担し、教員の専門性を生かしながら指導を行います。

⑤ 基礎学力定着のための取組

3～6年生対象の火曜放課後のフォローアップタイム^{※6)}、4～6年生対象の木曜放課後の「ハッピースタディ」^{※7)}、1～6年生対象で夏休み期間中に行う「夏季講座」^{※8)}などを通じて、基本的な学習内容の理解をサポートしていきます。また、全学年において毎週火・水・金曜に15分間の「チャレンジタイム」^{※9)}を設定して復習にあてているほか、宿題を定期的実施することで、家庭での学習習慣を促していきます。

※6) 授業だけでは理解できなかった内容の理解をめざす取組で、特定の児童を対象として年間を通じて担当教員を決め、苦手分野を中心に指導を行っています。

※7) ハッピースタディは4～6年生対象として、主に算数の基礎的な学力向上をめざして学校と学校支援本部が協力して行っている取組です。3年生対象のハッピースタディジュニアも実施します。地域の人たちが学習補助として協力しています。

※8) 卒業生や区内高等学校の生徒、大学生、地域の人たちなどの協力を得て行われています。

※9) 国語と算数で「東京ベーシックドリル」やタブレットの学習問題を使用しています。

学年	月	火	水	木	金	夏休み
1年						
2年			チャレンジタイム ^{※9)}	チャレンジタイム ^{※9)}		
3年	ハッピースタディジュニア ^{※7)}				チャレンジタイム ^{※9)}	夏季講座 ^{※8)}
4年		フォローアップタイム ^{※6)}				
5年				ハッピースタディ ^{※7)}		
6年					チャレンジタイム ^{※9)}	

2 豊かな人間性の育成（「人とのかかわるおもしろさ」を体感する）

学校における様々な取組や交流などを通じて、基本的な生活習慣や正しい判断力を身につけるだけでなく、地域社会の一員としての規範意識の醸成を図っていきます。

⑥ 規範意識の醸成

低学年では、生活習慣、善悪の判断、きまりを守るなどといった生活における基本の指導を、中学年では、身近な人々と協力し助け合うなど、体験や人間関係の広がりを意識した指導を、高学年では、社会とのかかわりを踏まえ、きまりやルールを意識した行動を心がけることや、情報モラル教育等を通じて「人としての自覚」を深める指導を重視し、児童一人ひとりの判断力を養っていきます。

⑦ 地域社会の一員としての自覚を育む取組

地域と共にある「コミュニティ・スクール（地域運営学校）」として、地域とのかかわりとつながりを意識した取組をさらに進めます。「朝遊び」「伝承遊び」「お店番体験」など、町会や商店会などの協力を得ながら様々な体験学習に取り組んでいきます。さらに2年生の「地域めぐり」や3年生の「まちにのこる昔の人々のねがい」では、天沼地域の一員としての自覚、地域への愛着心を育むための活動を行います。また、6年生の「わたしたちの天沼」では、今までお世話になった地域の人たちへの恩返しの気持ちも含めて、自らが企画した異世代交流を行います。

⑧ すべての人とかかわって生きる喜びの醸成（インクルーシブな心の育成）

日々の生活の中でさまざまなかかわるすべての人に興味を持ち、その生き方を認め、尊重する。言い換えれば世代や文化の違い、障害の有無などにかかわらず、すべての人がお互いを理解し合い、認め合える「共生社会」をめざす。それが「インクルーシブ」という考え方で、天沼小における「人とかかわり」の根幹となるものです。今年度もこだま学級^{※10}（知的障害を主とする特別支援学級）や副籍^{※11}など障害のある人たちとの交流活動、全校たてわり班活動^{※12}、2学年合同の学習^{※13}に取り組むことにより、児童同士のかかわりを深め、豊かな社会性を育てていきます。また、多様化する児童一人ひとりの「学びづらさ」に共に向き合い、解決を目指す場として昨年度から設置されている「特別支援教室（あまぬま教室）」では、個々の課題に寄り添う支援を実施していきま。す。「すべての人とかかわって生きる喜び」をすべての児童が感じられるよう、様々な機会を提供するとともに、必要な支援を的確に行い、成長を促していきま

※10) こだま学級の児童は通常学級と共に所属学級にて体験学習を行っています。

※11) 特別支援学校に通学している学区内の児童が、地域の学校の授業や行事に参加する取組です。

※12) 全校の児童を42のたてわり班（各班15～16名）に分け、集会で班活動を行っています。各班はリーダーの6年生が中心となり、話し合いをしながら交流を図っています。

※13) 1・2年生合同の学校探検、6年生が1年生のお世話をするなどといった活動を通じて、上級生はリーダーシップや自己有用感を、下級生は目上の人に対する敬意や協調性を育てています。

3 心と体の健康づくり（たくさんの「おもしろいこと」に出合うために）

体力向上に向けた取組や食育を通じて、
児童一人ひとりの心と体の健康づくりに力を注いでいきます。

⑨ 体力の向上と健康の増進

体力向上に関する研究を進め、より効果的な指導法を教員が共有し、「心と体の健康づくり」を充実して進めます。また、外部講師やアスリートなどのゲストティーチャーを交えた体育学習も行っています。こうした授業での取組に加えて、始業前の「朝遊び」^{※14}、水曜の「30分休み」（昼休み）、「長縄週間」や「持久走週間」などを行い、児童の体力向上を図ります。

※14) 地域の協力で始業前に外遊びの時間を確保しています。

⑩ 食育の推進

年間200回余の給食を充実させるだけでなく、栄養士の専門性を生かして、食に関する様々な情報の提供や指導を行っています。また、たてわり班でのお弁当給食、学期に1回ずつのリザーブ給食の実施など、食を通じた体と心の健康づくりを進めています。

⑪ スクールカウンセラーとの連携を通じた心の教育の推進

スクールカウンセラーと担任が連携し、児童の人間関係における問題の発見と予防に努めていきます。また、普段の学校生活を通じて児童の生活をきめ細やかに観察・把握しながら、担任への助言など必要なサポートを行い、思いやりの心を育む指導を行っています。相談可能日時は、定期的に発行する「カウンセラーだより」に掲載します。これまで通り教育相談室への出入りを保健室からも行えるようにするなど、誰もが気軽に相談できる環境を整えていきます。今後もカウンセラーが皆様にとって身近な存在となるような工夫をしていきます。

4 特色ある教育活動（「天沼小ならではの面白さ」がここにある）

地域の人たちおよびゲストティーチャーなどの協力も得ながら、
様々な体験学習を実施し、特色ある教育活動に取り組んでいきます。

読書活動

⑫ 読書タイム、お話会、読書週間の実施、学習情報センターとしての学校図書館の役割

週2回 朝10分間の「読書タイム」、定期的な「お話会」※15）や「チャレンジタイムの読み聞かせ」※16）、各学期に2週間ずつ設ける「読書週間」※17）を通じて読書への関心を高めていきます。また、学校図書館を拠点とし、学校司書と連携して、授業に必要な参考資料を揃えるなど、学習情報センターとしての役割を担っていきます。



※15）お話会は、学校支援本部や保護者の協力のもと、低学年は年8回、中学年は年5回、高学年は年3回、素話（すばなし。絵本や紙芝居などを使わない、声だけの読み聞かせ）を中心として行います。加えて絵本の読み聞かせをチャレンジタイムの読書タイムで行っており、想像力や聴く力を育てています。

※16）読み聞かせは、低学年・こだま学級が年間6回、高学年が年間3回の予定です。

※17）図書委員会の児童を中心として行うおすすめの本の紹介や、教職員による読み聞かせなどを行っています。

キャリア教育

⑬ お店番体験（3年）、地域安全マップ作り・障害のある方々との交流授業（4年）、起業体験プログラム AKP（5年）、わたしたちの天沼・裁判傍聴（6年）、手芸・ペットボトルキャッププロジェクト・フェスタこだま（こだま学級）の実施

天沼小のキャリア教育の実践として、教会通りの「お店番体験」（3年）、青年会議所のスタッフを迎えての「地域安全マップ作り」（4年）、自分たちで株式会社を設立して取り組む起業家体験プログラム「AKP（あまめま会社経営プロジェクト）」（5年）、天沼地域の人たちと交流を行う「わたしたちの天沼」や東京地裁の法廷に行つての「裁判傍聴」（6年）などを通じて、児童が「ほんもの」に触れ、自分の将来に対して夢や希望をもち、自分の得意分野を生かし前向きに生きていく意欲を育てていきます。

日本の伝統・文化理解教育

⑭ 日本の伝統・文化を理解する「ほんもの」に触れる多様な文化理解教育の実施

ゲストティーチャーを招き、和室も活用しながら行っている「茶道」、また低学年の「紙すき」「伝承遊び」「折り紙」、中学年の「華道」「手描き友禅」、中・高学年の「書道」、6年生の「和菓子作り」、全校で取り組む「百人一首」などを通じて、日本の伝統・文化への理解、郷土に対する愛着などを育てていきます。

また、1年生から英語活動にも取り組み、多様な文化の理解につながる学習・体験を行っています。



ICT教育

⑮ ICTインフラの利活用

天沼小は「令和2・3年度東京都教育委員会『情報教育研究校』の指定を受けており、全教室の電子黒板やデジタル教科書の活用、3年生以上の全児童に配備されたタブレットPCの活用、プログラミング教育や情報モラル教育の推進を積極的に進めています。こうした取組を今年度もさらに充実させていくとともに、ICT先進校として、オンライン学習の可能性に取り組むなど新たな発信を行ってまいります。なお、今年度のICT公開授業は2・3学期に1回ずつ、9月14日、1月16日に実施する予定です。

小中連携

⑯ 天沼中学校区における小中連携教育活動（AKA）の取組

小学校と中学校の義務教育9年間を一つのものとして捉え、系統的・継続的な教育活動を行う取組が「小中連携、一貫教育」です。学びの連続性や中1ギャップの解消など、様々な成果が期待されています。

天沼中学校区においては、天沼中学校全学年の生徒と、天沼小・杓掛小児童との交流学習を行います。1月16日土曜授業の日を三校合同で「AKAの日」と位置づけ、中学1年生と6年生との百人一首大会、中学2年生による1年生～4年生の各教科の授業サポート、中学3年生と5年生とのHUG訓練(防災ゲーム)を行い、全ての学年での交流を深めていきます。その他、授業体験、部活動体験等も実施し、中学校生活へのイメージを膨らませていきます。

一方、3校の教員が一堂に会して行う三校合同教員研修は、今年度も4回計画されており、教員同士の日常的な情報、ノウハウの共有や、ICT・情報モラル教育の連携推進等を通じて、よりよい教育活動の実現をめざします。また、学校運営協議会も、三校合同会議を行って共通理解を図ります。

幼保小連携

⑰ 近隣の幼稚園・保育園と連携した「わくわく交流プロジェクト」の取組

幼児や児童の実態、指導内容、指導方法について互いを知り、見通しを持った教育活動を進めるために、近隣幼稚園・保育園の保育者と天沼小教員は、幼保小連携推進委員会を設置し、幼保小の交流活動や合同研修を行ってまいります。交流活動は、3年生の総合的な学習の時間に計画的に位置づけ、学校を訪問した園児に「学校を案内する」「読み聞かせをする」などをしながら、小学校や児童に親しみが持てるようにしていきます。この活動を通じて、小1プロブレム^{※18)}の解消を図るとともに、3年生がお兄さん、お姉さんになった喜びを実感し、自己有用感や責任感を育めるようにしていきます。

※18) 小学校に入学したばかりの1年生が、環境の変化にとまどって学校生活や集団行動になじめない、というギャップが生じる状態を指します。

5 家庭・地域から信頼される学校運営の実現（「おもしろいこと」を支える確かな基盤づくり）

各種施設の整備や登下校の安全確保など、安心・安全な教育環境の整備を行うとともに、保護者や地域の人たちと緊密に連携を取りながら、安定した学校運営を実現していきます。

⑱ 迅速かつ的確な情報の公開・提供

学習活動・行事の様子に加え、保護者からの関心が高い学校を取り巻く様々な情報について、学校ホームページ^{※21)}や学校・学年だよりで公表するとともに、緊急時の保護者メール配信システムの活用などを通じて、迅速かつ的確な情報の提供・共有を図ってまいります。

天沼小

検索

※21) 学校ホームページは携帯からのアクセスも可能。

校長室だよりも随時更新していますので、ぜひご覧ください（「天沼小」で検索を）。

⑱ 学校支援本部（あまぬまワンダラーズ）との協働による教育活動の実施地域との「かかわりにつながり」を重視した土曜授業の実施（毎月1回）



学校支援本部（あまぬまワンダラーズ）は、学校の教育活動と地域の力を協働することにより、特色ある教育活動等にゲスト講師をコーディネートして、多様な「ほんもの」に触れさせる活動を進めるとともに、遠足等の引率や学習補充活動、朝遊びやスポーツテスト等にサポーターをコーディネートして、児童の取組を安心安全に、また豊かに進められるような活動をしていきます。さらに、土曜日学校（あまぬまハッピーさたでい）や放課後子ども教室（あまぬまハッピーくらぶ）を通して、児童が楽しみながら学びや体験にチャレンジしていく活動を企画、運営していきます。保護者、地域の人たちやゲストティーチャーとの、「かかわりにつながり」を大切にしながら、土曜授業を進めます。天沼地区町会等の人たちと交流する「伝承遊び」、保護者・地域の人たちとも学び合う「薬物乱用防止教室」や「道徳地区公開講座」、ゲストティーチャーとともに学習する「セーフティ教室」や「日本の伝統・文化理解学習」等をはじめとした多様な取組を、学校支援本部の協力を得ながら行います。

㉑ 「コミュニティ・スクール（地域運営学校）」としての学校運営

「地域運営学校＝コミュニティ・スクール」として、校長から今年度の学校運営方針を説明する機会や場づくり「天沼教育フォーラム（教育課程説明会）」^{※22}の実施や、一つのテーマについて保護者・地域の人たち・教職員が話し合う学校運営協議会主催の「サマーワークショップ」など、学校の運営について直接ご意見をうかがう機会を設け、実際の学校の運営に生かしてしていきます。さらに平成23年度から行っている「学校評価アンケート」で寄せられた児童・保護者・地域の人たち、教職員からの評価・意見も反映させながら、「地域とともにある学校」としての取組をしっかりと進めていきます。



※22) 今年度は「もっと知りたい！天沼小の取組」として、2回にわたり実施します。天沼小をより知っていただくことを目的としています。